岡山醫學會彙報

岡山醫學會通常會

岡山醫學會通常會は大正十一年十二月二十一日午後三時十分より岡山醫科大學生理學教室に於て開會す藤田學長開會を報じ直ちに左の演說に移る

第一席　脚氣經過中ニコルサコフ氏精神病樣症狀ヲ起セル患者供覽

醫學博士　金子廉次郎君

著者は脚氣にコルサコフ氏精神症候群の併發することあるは今村博士によるも明なるが其報告例の極めて稀なることを述べ其實驗せる一例に就て既往症竝に現症を說き特に本例に於て「アドレナリン」注射により亢進する著明なる反射性全身震顫運動の存在するを珍奇なりとし之を供覽せり。（自抄）

第二席　家兎ニ於ケル腹腔妊娠　標本供覽

菅野大作君

第三席　肺臟ノ血管運動神經ニ就テ

西丸和義君

君の演說は追て本誌原著欄に揭載すべし。

第四席　蛙ノ臟器ノ毛細管血行供覽

林香苗君

從來の如く透射光線によらず、落射光線によりて比較的簡單に不透明なる蛙の臟器（腎、胃、筋等）の毛細管血行を觀察する法を供覽せり。（自抄）

第五席　「ラヂウム」ノ「デモンストラチオン」

醫學博士　安藤畫一君

今回岡山醫科大學附屬醫院に於て購入したる「ラヂウム」（三十「ミリ」瓦）を供覽せられたり。

右終りて午後五時十分閉會せり。

役員會

大正十一年十二月十四日午後二時より岡山醫科大學に於て役員會を開き左の事項を可決せり

一、本會第三十四回總會を大正十二年二月二十四、二十五の兩日岡山醫科大學講堂に於て開會す

一、第二日午後六時半より懇親會を開くこと

右終りて午後三時散會す。

當日の出席者は藤田會長、石本、戸田、河田、加藤、田村、中川、八木田、藤原、赤澤、淺羽、齋藤、白坂の各評議員なり。

原著紹介

◉愛知醫學會雜誌（第二九卷第六號）

三重縣北牟婁郡ニ於ケル一種ノ圓錐體外路症候群ヲ呈セル地方病「ネムタ」病ニ就テ（承前）（鎌田亮之助）

皮膚病ニ對スル黃外線（水銀石英燈、人工高山太陽燈）ノ治療效果ニ就テ（德永惠）

非脾臟肥大性赤血球過多症ニ就テ（淺川賢一郎）

葡萄狀球菌ニ因ル皮下局所免疫ニ就テ

第二、組織球性細胞ノ局所免疫成立ニ關スル意義（鷲見謙一）

老人ニ來ル膝腘窩脈管ノ變化ニ就テ（小坂慶二、三木卓）

十二指腸蟲ニ關スル研究（十二指腸蟲仔蟲ノ異種動物組織內侵入並ニ侵入仔蟲ノ運命ニ就テ）（江口季雄）

◉醫事新聞（第一一〇七號）

實驗的「ビタミン」B缺乏症ノ研究成績ニ基ク余等ノ脚氣本態觀ニ對スル臆說（緒方知三郎外四名）

脚氣ニ來ル「アチドーシス」ノ研究（林亨）

小兒ニ於ケル原發實質性肝臟癌（「ヘパトーマ」例）追加（向井敏）

◉醫事新聞（第一一〇八號）

「オツエナ」ノ「ワクシン」療法ニ就テ（坂上弘藏）

大正十一年東京市ニ流行ノ虎列刺ニ就テ（村上達三）

鹽酸「プロームーシノメニン」ノ臨牀實驗（鶴田靜磨）

◉醫學中央雜誌（第二〇卷第一一號）

先天性頸部正中瘻ニ就テ（近藤正基）